

# 第三期森林環境税活用事業の成果（案）

（平成 2 5 年度～平成 2 8 年度まで）

Ver. 1

平成 2 9 年 3 月

高 知 県

# 1 森林環境の保全を進める事業

①みどりの環境整備支援事業【H25～H28 活用額 101,288 千円】

②公益林保全整備事業【H25～H28 活用額 203,638 千円】

## 1 事業目的及び内容

水源かん養機能等の公益的機能が高い人工林の保育間伐を推進することにより、荒廃森林の発生を防止し、森林の持つ公益的機能が効果的に発揮されるよう森林の整備を推進します。

## 2 主な取組と実績

①みどりの環境整備支援事業（国庫補助事業の嵩上げ補助）

3 から 9 齢級まで（11 年生から 45 年生ままで）の人工林で行う保育（除伐を含む）間伐に要する経費に対して支援し、これまでに 32 市町村で 4,359ha の保育間伐を実施しました。

②公益林保全整備事業（県単独補助）

3 から 12 齢級まで（11 年生から 60 年生ままで）の人工林で行う保育（除伐を含む）間伐に要する経費に対して支援し、これまでに 28 市町村で 2,545ha の保育間伐を実施しました。

## 3 事業の成果

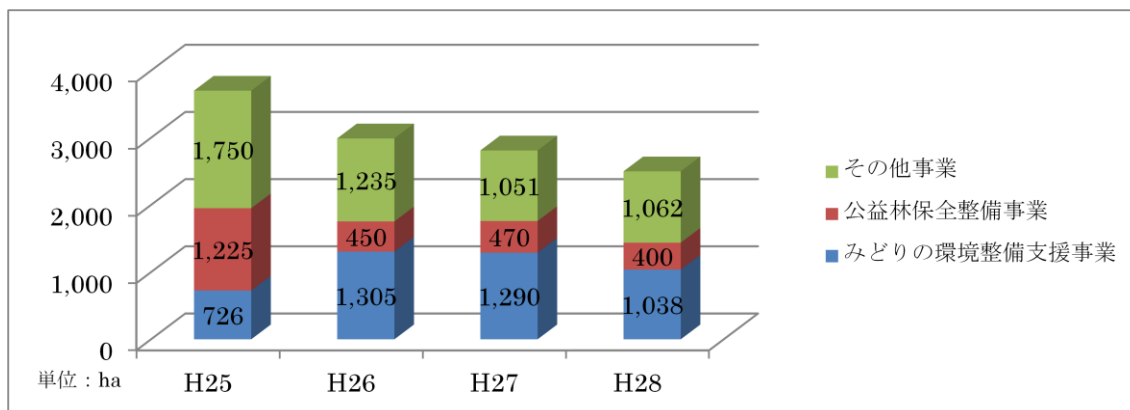
CO2 吸収効果をはじめとする、森林の多面的機能の維持増進を図ることができました。

また、第三期目（平成 25 年度から平成 28 年度まで）の間伐目標値 5,000ha に対しての達成率は 138%となっています。

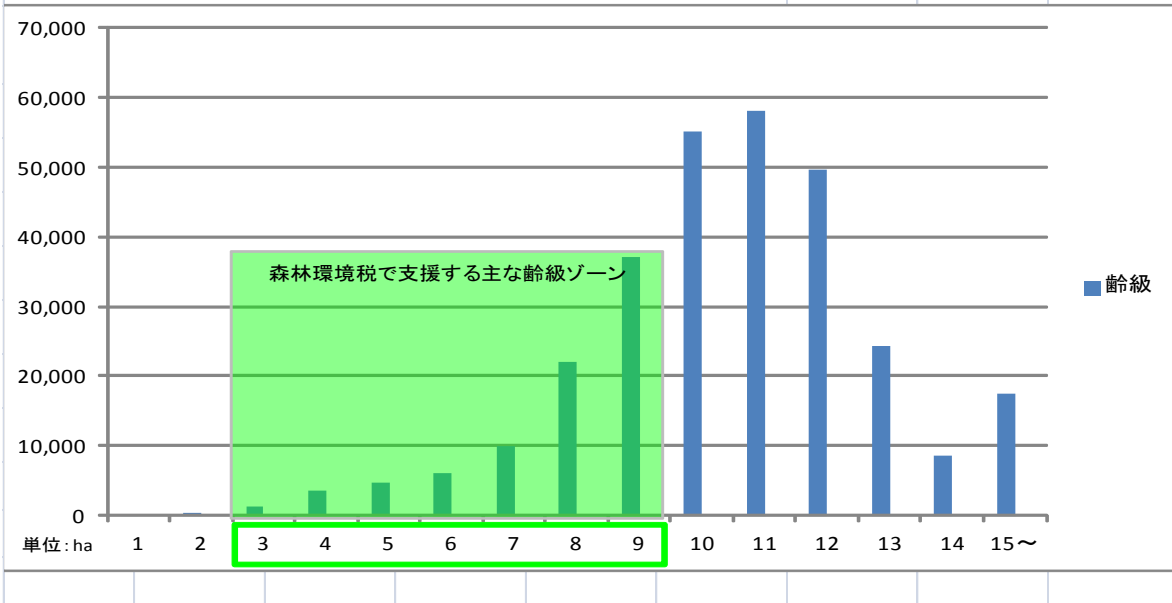
## 4 課題と改善策

県内の人工林の多くが木材利用に適した状況となってきたことから、事業規模を見直していく必要があります。

また、かねてから県民からの要望が多い作業道の整備やシカ被害対策など、間伐に加えてさらなる支援の形を検討していく必要があります。



【図1】高知県民有林の林齢構成(平成27年4月1日現在)



1) 森林環境税活用事業の実績 (H28は見込み)							単位: 千円
No.	事業名	H25	H26	H27	H28	計	
1	みどりの環境整備支援事業	8,533	30,092	38,973	23,690	101,288	
2	公益林保全整備事業	98,025	35,983	37,630	32,000	203,638	
計		106,558	66,075	76,603	55,690	304,926	

2) 保育間伐の実績 (H28は見込み)							単位: ha
No.	事業名	H25	H26	H27	H28	計	
1	みどりの環境整備支援事業	① (森林環境税)	726	1,305	1,290	1,038	4,359
2	公益林保全整備事業	② (森林環境税)	1,225	450	470	400	2,545
3	その他事業	③	1,750	1,235	1,051	1,062	5,098
4	保育間伐合計	④ ①+②+③	3,701	2,990	2,811	2,500	12,002
5	森林環境税活用事業の占める割合	⑤ (①+②)÷④	53%	59%	63%	58%	58%
6	森林環境税活用事業年間目標面積	⑥	1,250	1,250	1,250	1,250	5,000
7	目標に対する達成率	⑦ (①+②)÷⑥	156%	140%	141%	115%	138%

### ③-1 集落ぐるみ捕獲推進事業【平成 25～26 年度 活用額 45,540 千円】

#### 1 事業目的及び内容

ニホンジカによる農林業被害や自然植生被害が深刻化しています。このため、山林に広範囲に生息するニホンジカを捕獲するため、被害を受けている集落にくくりわなを配付し、そのくくりわなを使って集落全体でニホンジカの捕獲に取り組むことによって、年間捕獲目標 30,000 頭の達成を目指します。



【自然植生被害】



【配付くくりわな】

#### 2 主な取組と実績

市町村を通じて、中山間地域の被害を受けている 1,005 集落にくくりわなを配付しました。

【配付数】 延べ 9,000 個 (H25 : 5,000 個、H26 : 4,000 個)

【配付先】 延べ 49 市町村 (H25 : 24 市町村、H26 : 25 市町村)

H25 年度 (高知市、南国市、土佐市、宿毛市、土佐清水市、四万十市、香南市、香美市、奈半利町、北川村、馬路村、芸西村、本山町、大豊町、土佐町、大川村、いの町、中土佐町、越知町、梶原町、津野町、四万十町、大月町、黒潮町)

H26 年度 (高知市、室戸市、安芸市、南国市、須崎市、宿毛市、土佐清水市、四万十市、香美市、東洋町、田野町、安田町、北川村、馬路村、本山町、大豊町、土佐町、大川村、いの町、仁淀川町、中土佐町、津野町、四万十町、大月町、黒潮町)

【配付集落数】 延べ 1,005 集落 (H25 : 539 集落、H26 : 466 集落)

#### 3 事業の成果

くくりわなの配付に合わせて捕獲技術講習会を 39 回実施し、捕獲技術の向上を図りました。

配付くくりわなによる捕獲実績については、ニホンジカ、イノシシ合計で 381 頭を捕獲することができました。

配付わな本体は、数年利用することが出来るため、継続的な捕獲により、さらなる捕獲が期待できます。



#### 4 課題と改善策

狩猟者が減少する中、近年わな猟免許取得者が増加傾向にあるため、一定の捕獲技術水準の確保が課題となっています。今後も捕獲技術の向上のため、特に狩猟歴の浅いハンターを対象に捕獲技術の底上げが必要になっています。

### ③-2 シカ捕獲推進事業【平成 27 年度 活用額 19,971 千円】

#### 1 事業目的及び内容

ニホンジカによる農林業被害や自然植生被害が深刻化しています。このため、山林に広範囲に生息するニホンジカを捕獲するため、平成 25、26 年度に引き続き被害を受けている集落にくくりわなを配付し、そのくくりわなを使って集落全体でニホンジカ捕獲に取り組むことや、新規狩猟者にくくりわなを配付することで、即戦力化と担い手の確保を図ることによって、年間捕獲目標 30,000 頭の達成を目指します。



【自然植生被害】



【配付くくりわな】

#### 2 主な取組と実績

市町村を通じて、中山間地域の被害を受けている集落を対象にくくりわなを配付するとともに、新規狩猟者へも配付を行いました。

【配付数】 3,800 個

【集落への配付】 26 市町村

(高知市、室戸市、安芸市、南国市、土佐市、須崎市、宿毛市、土佐清水市、四万十市、香南市、香美市、東洋町、北川村、馬路村、芸西村、本山町、大豊町、土佐町、大川村、いの町、中土佐町、日高村、津野町、四万十町、大月町、黒潮町)

【配付集落数】 668 集落

【新規狩猟者への配付】 新規狩猟者 390 名に配付

(H26～H27 新規狩猟者を対象)

#### 3 事業の成果

くくりわなの配付に合わせて捕獲技術講習会を 25 回実施



し、捕獲技術の向上を図りました。

3年間で配付したくくりわなによる捕獲実績については、ニホンジカ、イノシシ合計で4,149頭を捕獲することができました。

#### 4 課題と改善策

狩猟者が減少する中、近年わな猟免許取得者が増加傾向にあるため、一定の捕獲技術水準の確保が課題となっています。今後も捕獲技術の向上のため、特に狩猟歴の浅いハンターを対象に捕獲技術の底上げが必要になっています。

### ③-3 指定管理鳥獣捕獲等事業【平成28年度 活用額1,280千円】

#### 1 事業目的及び内容

ニホンジカの食害により森林の下層植生が喪失し、生物多様性が大きく損なわれています。また、急峻な地形のため通常の方法では捕獲することが困難な地域が発生することにより、ニホンジカの避難場所となっています。このため、高い技術力と安全管理能力を有した「認定鳥獣捕獲等事業者」を活用した効果的かつ高度なニホンジカの捕獲を実施します。



食害を受けて裸地化したさおりが原

#### 2 主な取組と実績

山岳地など捕獲困難地域でのニホンジカの捕獲を実施

【捕獲区域】（国有林、鳥獣保護区）

- ・安芸区域：安芸郡馬路村魚梁瀬（雁巻山鳥獣保護区）
- ・高岡区域：高岡郡四万十町大正（つづら山鳥獣保護区）

【捕獲方法】銃猟によるニホンジカの捕獲

捕獲期間：平成28年12月15日～平成29年2月28日の内8回実施

#### 3 事業の成果

指定管理鳥獣捕獲等事業を行い、（\*）頭のニホンジカを捕獲しました。事業実施により、捕獲方法の検討や餌による誘引、捕獲方法に応じた捕獲地域の選定など

（\*）現在、実績を集計中です



の検討課題を得る事ができました。これらの情報やデータをフィードバックして今後に活かすことが必要と考えています。

#### 4 課題と改善策

捕獲活動は山岳地域などの捕獲困難地域で通常狩猟を行っていない鳥獣保護区でもある国有林内で実施したため、不慣れな土地での捕獲作業となり、通常の狩猟と比べて多くの労力がかかりました。

しかしながら、国有林等は、通常の民有林と比べ狩猟する圧力が低く、また、有害駆除の際にシカが逃げ込む場所や繁殖場所となっていることから、今後も捕獲方法を検討しながら同様の捕獲活動を継続していく必要があります。

#### ④希少野生植物食害対策事業【H25～H28 活用額 37,630千円】

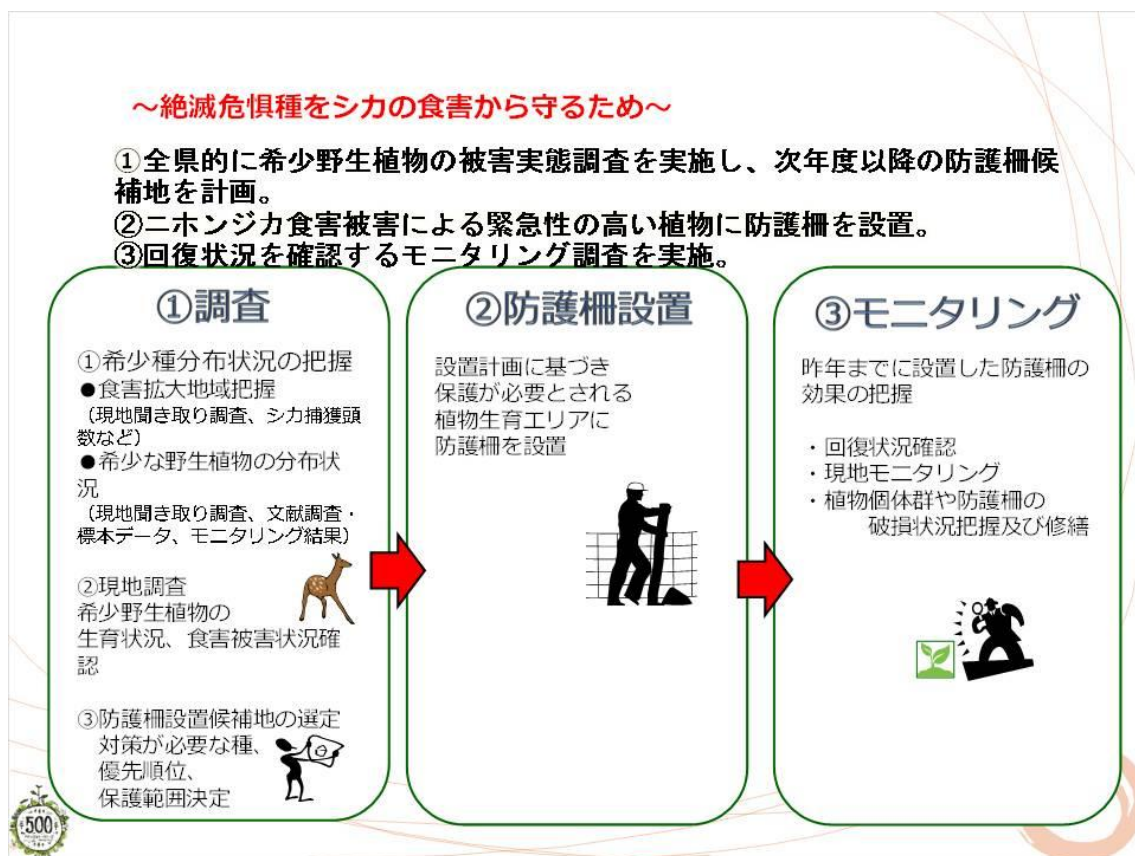
##### 1 事業目的及び内容

平成20年度より特にニホンジカによる希少野生植物の食害が深刻化しています。そのため、このまま食害が進むと近い将来希少野生植物が絶滅する可能性が高い山域の被害実態調査を実施し、その状況に応じて緊急性の高い場所に防護柵（保護ネット）の設置を行うなど、希少野生植物の保護を図っています。

また、設置した防護柵の効果を把握するため、生育範囲拡大などの回復状況確認のモニタリングを行い、植物個体群や防護柵の破損状況を把握のうえ適切な処置を行っています。

##### 2 主な取組と実績

希少野生植物を保護するため、平成20年度から平成28年度までで、39箇所、3,920mの防護柵を設置し、48種を保護しました。

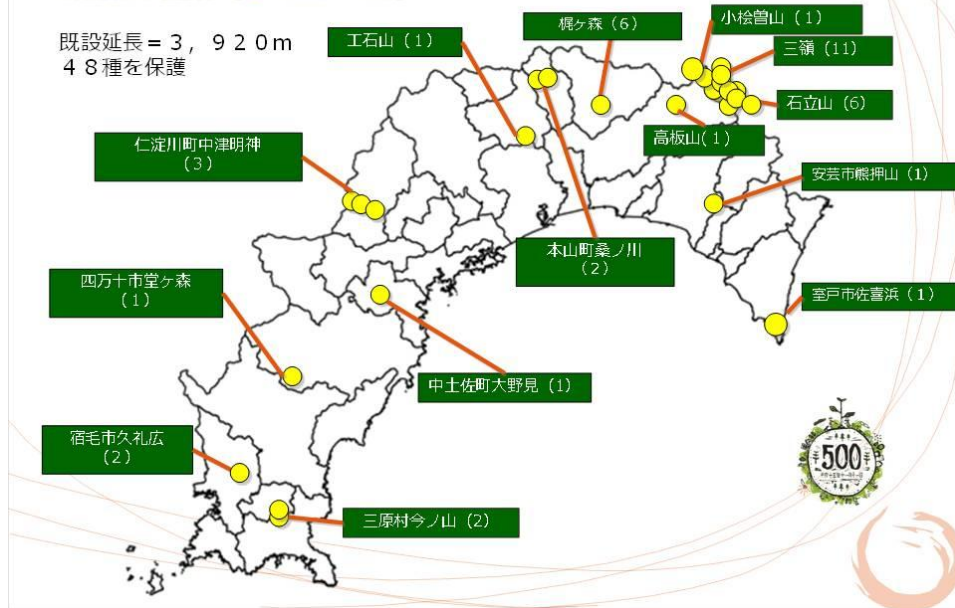




## 防護柵設置状況

・既設39箇所 (● H20 ~28)

既設延長 = 3, 920m  
48種を保護



### 3 事業の成果

毎年のモニタリング調査の結果、防護ネット内のほとんどの方形区(標準地)で植被率(植物が覆っている割合)や生長の度合い、出現植物種数などが、おおむね上昇・増加しており、防護ネットの効果があることが確認できました。

#### 防護柵設置後の植生回復状況

平成25年



平成26年



平成24年度



平成25年度



平成26年度



#### 4 課題と改善策

今後の課題は資材の劣化に伴う破損が増えてきており、既設の防護ネットのメンテナンスを適宜行い破損リスクを低減していくとともに、植物愛好家やボランティア団体、森林組合との連携体制の構築が必要と考えています。

## 2 県民の森林への理解と関わりを深め広げる事業

### ⑤山の学習支援事業【H25～H28 活用額 49,018千円】

#### 1 事業目的及び内容

「木の文化」を身につけ、活動できる人材を養成するとともに、木や森に関わる人々の技術や伝統を次代に伝えることに努めます。

また、将来を担う子どもたちに「木の文化」が身につくような学習への支援を行います。

#### 2 主な取組と実績

総合的な学習の時間において、年間を通して森林環境学習を行っている小中学校に対する支援を行いました。

平成25年度から28年度までの4年間で、延べ約19,600人を超える子どもたちが森や山に触れ合いながら、自然体験などの学習を行いました。

#### 3 事業の成果

楽しむ機会が少ない児童、生徒に森林への理解や関わりを深めてもらうためのキッカケづくりとなっています。

#### 4 課題と改善策

山の学習支援事業は、積極的に事業を活用している市町村と、活用していない市町村があることから、事業を一層浸透させ、森林環境学習が広く行われるよう、各市町村（教育委員会）にPR（事業趣旨や事業内容の案内など）を行っていく必要があります。

山の学習支援事業					
年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	計
学校数	47	59	59	58	223
市町村数	16	20	18	15	69
参加者	4,188	4,974	5,325	5,169	19,656

## ⑥高校生森林環境理解事業【H25～H28 活用額 3,047 千円】

### 1 事業の目的及び内容

河川の水質検査や間伐材利用などの体験を通して、森林や森林環境の重要性を理解し、将来の森林環境保全に具体的に取り組める人材の育成を支援します。

### 2 主な取組と実績

四万十高校、高知北高校では、河川の水質や森林植生の調査、フィールドワーク等を通じて、森・川・海を結ぶ生態系の成り立ちや森林の環境に与える重要性について学習してきました。また、幡多農業高校では、森林管理作業の技術習得や間伐材を利用した木材加工品の製作を行い、保育園に配付するなど将来の木材需要の向上を図ることができました。



【実施回数】

単位：回

実施内容		回数				計
		H25	H26	H27	H28(見込)	
環境教育	校内学習	6	7	6	9	28
	校外学習(フィールドワーク等)	21	28	27	29	105
木材利用	木工教室	1	1	6	5	13
	間伐材利用	2	17	14	15	48
合 計		30	53	53	58	194

### 3 事業の成果

教科学習の中で学ぶ環境教育に加え、本事業での体験的学習により、高知県の森林や河川の環境に関する知識、木材の有用性など、森林環境について深く考える機会が得られ、森林環境を大切にする意識を醸成することができました。また、小中学生への出前授業を実施したり、親子木工教室を実施することで、学んだことを他人に伝える活動もできるようになりました。

### 4 課題と改善策

持続可能な森林環境の保全への取組を進めていくためには、将来を担う世代に森林への理解と関心を持っていただくよう、取組を着実に継続していく必要があります。そのためにも、学校現場での継続的な森林環境教育を実施していく必要があります。

## ⑦高校生後継者育成事業【H25～H28 活用額 1,147 千円】

### 1 事業の目的及び内容

高知県森林研修センターと連携を図り、林業の現場で必要とされる車両系建設機械と可搬式林業機械の資格取得を支援します。

### 2 主な取組と実績

#### ①車両系建設機械研修

研修内容「車両系建設機械に関する講義と整地・運搬・積み込み掘削の実技」

高知農業高校、幡多農業高校の生徒に加え、平成 27 年度から学校数を拡大し、窪川高校、梶原高校の生徒が受講しました。



#### ②可搬式林業機械研修

研修内容「チェーンソー及び刈払い機の取り扱いについての講義と実技」

高知農業高校に加え、平成 27 年度から窪川高校、梶原高校の生徒が受講しました。



【受講者数】

単位:人

研修	人数				計
	H25	H26	H27	H28(見込)	
車両系建設機械	18	18	28	25	89
可搬式林業機械	13	30	12	23	78
計	31	48	40	48	167

### 3 事業の成果

資格取得が生徒の学習意欲に繋がるなど相乗効果もあり、技術向上や進路保障につながっている。林業作業に必要な労働安全衛生法に基づく資格・免許を取得し、次世代の林業後継者となる人材の育成に繋がっています。

### 4 課題と改善策

車両系建設機械の資格取得は、一度に受講できる人数が上限 10 名であり、希望者が多くなった場合、受講できない生徒が出てくる可能性があります。

また、生徒の希望進路に応じて、学校側での選抜も必要かと思いますが、研修先である高知県立森林研修センター側の体制の改善も望まれます。

## ⑧環境学習推進事業【H25～H28 活用額 4,610 千円】

### 1 事業目的及び内容

平成 22 年度に開催した「全国生涯学習フォーラム高知大会」における「環境フォーラム」での提言を受け、NPO等の団体や学校、青少年団体が連携した自然体験活動や環境学習を推進します。

### 2 主な取組と実績

#### ①指導者養成研修等委託業務

森のようちえんをはじめとした幼少期の子どもを含め青少年向けの自然体験活動プログラムの企画・実施ができる自然体験インストラクターを養成しました。

- ・自然体験リーダーの養成・・・延べ人数(H25～H27)43人
- ・自然体験インストラクターの養成・・・延べ人数(H25～H28)52人

#### ②情報共有・情報提供

自然体験・環境学習に関する情報（イベント、各種団体、場所等）を広く提供するとともに、青少年の体験活動の意義や効果について啓発を図りました。

#### 【高知体験学習ガイドポータルサイト】

自然体験活動指導者に対して安全管理や活動プログラム等、情報提供に関する支援を行いました。

また、環境学習プログラムの実践事例や青少年教育団体の活動事例を紹介しました。

#### ③体験活動推進事業

子どもの体験活動の機会を増やすため、身近な場所で、豊かな体験活動を提供できる指導者を地域の青少年育成団体等に派遣しました。

### 3 事業の成果

研修修了者の多くがNPOや青少年教育施設でのボランティア活動に参加することで、指導者間での交流や情報交換が行われる等、新たな連携が生まれています。

また、指導者養成研修の受講者を、体験活動推進事業の講師として派遣することができました。

### 4 課題と改善策

人材を育成するとともに、小中学校への講師派遣など、研修を修了した者が活動できる場を積極的に提供することで、環境学習の推進を図っていく必要があります。

## ⑨こうち山の日推進事業【H25～H28 活用額 47,541 千円】

### 1 事業目的及び内容

県民一人ひとりに森林や山を守る活動の重要性に対する理解と関心を深めてもらうことを制定趣旨とした「こうち山の日」（11月11日）を中心に行われる普及啓発活動や森林保全ボランティア活動等を支援します。

### 2 主な取組と実績

県民が森林保全活動や都市と山村の交流など、森林への理解と関心を深める取組に対して支援しました。

また、広く県民から参加を募る森林保全ボランティア活動などを支援しました。

### 3 事業の成果

平成25年度から平成28年度までの4年間で、延べ約58,000人を超える県民のみなさんに、「こうち山の日」の制定趣旨に賛同した活動に参加していただき、全国一の森林率を誇る本県の森や山に対する理解や関わりを深めていただくことができました。

### 4 課題と改善策

「こうち山の日」の活動への参加人数は年々増加傾向であることから、今後も県民の方の参加を増やす努力を重ねていく必要があります。

また、今後は活動団体間で優良事例などを共有するために実施している情報交換の場を通じて、より広く県民に周知させるための工夫を検討していく必要もあります。

こうち山の日推進事業										単位 事業数:件、参加者:人	
事業名	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		計		
	事業数	参加者	事業数	参加者	事業数	参加者	事業数	参加者	事業数	参加者	
こうち山の日推進事業費補助金	157	9,118	123	14,444	153	17,388	253	16,012	686	56,962	
①山の日推進事業分	27	4,054	33	9,728	19	10,988	135	10,696	214	35,466	
②山の一日先生派遣分	130	5,064	90	4,716	134	6,400	118	5,316	472	21,496	
こうち山の日県民参加支援事業委託料	37	309	15	323	4	124	15	300	71	1,056	
計	194	9,427	138	14,767	157	17,512	268	16,312	757	58,018	
							*H28見込み				



## ⑩森林保全ボランティア活動推進事業【H25 活用額 1,211 千円】

### 1 事業目的及び内容

森林整備を実践する森林保全ボランティア団体の設立や間伐活動を支援し、適正な森林管理を促進します。

### 2 主な取組と実績

新規ボランティア団体の設立を支援した結果、平成 25 年度に 1 団体 15 名のボランティアが新たに加入しました。

また、間伐を実施するための経費を「地域通貨券」により助成し、ボランティア団体の手によって約 12ha の間伐を行いました。

### 3 事業の成果

第二期目に較べて、ボランティア団体数及びボランティア人員が減少しているが（第一期目人数 888 人→第二期目 1,055 人→第三期目 1,018 人／平成 28 年度末現在）、森林保全ボランティア活動は引き続いて行われており、また、間伐した木材をボランティア自ら木工用資材などとして搬出し、活用するなど間伐材の有効利用に繋がっています。

### 4 課題と改善策

平成 28 年度末現在で県内の森林保全ボランティア団体は延べ 30 団体、1,018 名と第二期から減少しています。

そのため、今後、更なる森林保全ボランティア団体の掘り起こしを行う必要があります。

年度	第一期	第二期	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
団体数		8	1	0	△ 6	0
累計 団体数	27	35	36	36	30	30
単年度		167	15	0	△ 52	0
累計人数	888	1,055	1,070	1,070	1,018	1,018

## ⑪ 森づくりへの理解と参加を促す広報事業

【H25～H28 活用額 58,900 千円】

### 1 事業目的及び内容

森林への関心の高い方に限らず幅広い県民を対象に、森林環境税の目的や使い道などや森林の大切さなどをPRするためのパンフレット等を作成します。

### 2 主な取組と実績

森林環境税の趣旨や税に関する使途などを知っていただくため、なるべく多くの県民の方々が手にする機会を増やすため、金融機関をはじめ県民のみなさんが足を運ぶ場所や目に触れるところに設置しました。

また、情報誌については、平成 25 年度から県内小中学校の全児童生徒に配布しており、計 8 回述べ 820,000 部配布しました。

### 3 事業の成果

パンフレット等の配布を通じて、森林環境税を活用した事業や税の使途について、多くの県民のみなさんに紹介することができました。

また、情報誌については、平成 23 年度から、小中学校の児童生徒を中心に配布しており、より多くの県民のみなさんに対して、森や山への理解や関わりを深め広げていただくためのPRをすることができました。

あわせて、森林環境税を活用した事業の紹介記事等を通じて、森林環境税が有効に活用されていることを、県民のみなさんに広報することができました。

### 4 課題と改善策

情報誌は大変好評を博していますが、パンフレット等については、もっと森林環境税の認知度や税の活用内容を周知させることができるよう、常に工夫をする必要があります。

広報誌等の配布実績					
広報冊子名	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	計
パンフレット	10,000	0	0	6,000	16,000
チラシ	10,000	10,000	20,000	20,000	60,000
リーフレット	0	10,000	0	0	10,000
情報誌(mamori)	210,000	210,000	200,000	200,000	820,000
計	230,000	230,000	220,000	226,000	906,000

## ⑫運営委員会等開催費【H25～H28 活用額 3,786 千円】

### 1 事業目的及び内容

森林環境保全基金の運営を適正に行うため、基金運営委員会を開催します。

### 2 主な取組と実績

有識者、消費者など10名の県民で構成し、森林環境税を活用した事業の予算審議や、事業の執行管理などを行い、同税の透明性を確保することに努めました。

### 3 事業の成果

同税の活用等についての透明性を確保することができました(同委員会の概要については、高知県公開HP内「森林環境税のページ」にて議事録をご覧になることができます)。

森林環境保全基金運営委員会					
年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	計
回数	4	3	4	4	15
人数	34	27	31	32	124

## ⑬木の香るまちづくり推進事業【H25～H28 活用額 139,461 千円】

### 1 事業目的及び内容

「木の文化県構想」に基づく「木に親しむ」・「木を活かす」活動の一環として、県産材を積極的に利用した公共的施設等の整備や木製品の導入に対して支援を行い、県民や県外からの観光客等に木の香る環境を提供して、木の良さの普及を図り、県産材の需要拡大を図ることに努めます。

### 2 主な取組と実績

- ・公共的施設整備（公共施設等に対する木質化整備及び木製品の導入）：延べ 27 箇所
- ・学校関連環境整備（学校等に対する木質化整備及び木製品の導入）：延べ 152 箇所
- ・屋外景観施設等整備（屋外施設への木製による景観施設等の整備）：延べ 19 箇所

公共的施設（高知龍馬空港）



学校関連施設（保育園：テーブル）



屋外景観施設（トイレ）



### 3 事業の成果

県民のみなさんが木に触れ合う空間をより多く整備するため、PR効果の高い「ホームセンター」を平成25年度から新たに対象に加えるとともに、学校関連施設においては、「許可外保育施設」を加え、より多くの幼児に木に触れ合う環境を提供しました。

特に、学校関連施設の木質化等においては、幼児期からの「木育」を推進し、木の良さや利用することの意義などを学ぶことにより、将来の県産材の応援団として木材利用の拡大に繋げてまいります。

### 4 課題と改善策

これまでの取組により、一定、県民のみなさんが日常生活の中で身近に触れ合う場所に木材利用を進めてきましたが、今後も、より多くの空間に木材利用を進めることにより「木育」を推進し、県産材の需要を拡大していくことが重要です。